



やまゆり

学校だより

令和4年12月8日
70号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

教育重点目標 「 豊かな心の育成 」

12月8日は歴史を見つめ、平和について考える日にしたい

81年前の今日12月8日に日本軍は、ハワイ・オアフ島・真珠湾のアメリカ軍基地を奇襲攻撃し、太平洋戦争を始めました。現在も世界では戦争や紛争が至るところで起こっています。しかし81年間日本は戦争に加担していません。この平和を維持、発展させるために、12月8日は、日本にとってどのような日なのかを改めて一人一人が考え、家族や学級などの「身近な平和を創る」ことが大切だと考えます。学校現場にも、いじめや人権侵害等の問題があります。各自がそれぞれの立場で、自分の事として平和の実現に向けてできることを実践していきましょう。

この真珠湾攻撃に参加した、当時の^{ゼロセン}零戦(当時の艦上戦闘機の名前)のエース・パイロットだった長野県出身の^{かなめ}「原田 要」さん(残念ながら亡くなりました)から直接証言していただく機会が過去にありました。以下は戦争に参加した原田さんの証言です。

- 戦争体験者として、見ず知らずの者同士がお互いを殺しあう「戦争を憎む！」
ー 戦争は人を人でなくしてしまう ー
- 戦争に参加した者に勝ち負けはない。
戦争では、命を失う人が当たり前にいる。しかし、戦争に勝ち、生き残ったとしても戦争でしてきたことを背負って生きていかなければならない。また、戦いの場面が何年経っても鮮明に思い出されてずっと苦しんだ。
- ミッドウェー海戦では、航空母艦の赤城・加賀・蒼龍・飛龍等が撃沈させられ零戦で帰るところを失い、4時間一人で海に浮いていた。あきらめが早いと死んでしまう。「最後まであきらめない気持ち、我慢こそが」命を救う。
- 「感情に任せてキレるのは卑怯なこと」。相手と争うことが無いように生活することこそ大切。

12月8日はビートルズの「ジョン・レノン」の命日でもある。彼は平和を訴える歌を歌い続けた。

歴史を学ぶことは、未来をより良く生きること。そして、平和な未来を創ること。

教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級経営」
本校の学校教育の重点についてご理解とご協力をお願いします

1 全国の学校の教育状況

- コロナ禍や働き方改革、求められる教育施策や要求の高さにどこの学校も精一杯の状態。
- 令和3年度のいじめの認知件数は全国で61万件。命に関する重大事態は705件。
- 令和3年度の小中学生の不登校生徒は、前年度比25%上昇し、24万5千人。
- 全国の単級の小規模校の学力や学級の状況は、全国平均以下の学校が多い。
- 同じクラスを持ち上げて学級経営をすることが難しいために、単年度で学級編制する学校が圧倒的に多い。
- 大規模校も小規模校も含めて一般的には、各学級・学年の状態に大きな差がある。

2 本校の学校教育の状況

☆WEBQU等の調査・観察・面接などにより、生徒の情報を共有し全職員で協働実践することによって下記の成果を得ている。

☆生徒の努力・保護者の理解・行政のバックアップ等も大きな力になっている。

- 生徒のいじめの認知はない。(気になることがあればいつでも相談して下さい)
 - 不登校生徒はいない。(不登校は問題行動ではない・学校で学ぶ事のみを最善としない)
 - 学校教育に関する大きな問題・トラブル等はない。
 - 生徒の学級の満足度はとても高い。(調査・観察・面接等より)
 - 学級・学年間に状態の差が無い。(個人と集団に応じた情報共有と協働実践の徹底)
 - 個人差はあるが全国学力学習調査・県の学力把握調査は総じて良好な学習状況である。
 - 標準化検査のデータを基に、チームで協働しながら成果を得る教育実践が出来る学校は少ない。そのため、研究会での発表依頼も多く本校職員の実践は高く評価されている。
- ※南都留でへき地の中学校は本校のみ。そのため管理職も含め1年で5割以上が異動する難しい教育環境にある。

3 本校の学校教育に関する説明

本校では、コロナ禍の難しい教育状況の中で、命や人権、生徒の困っていることや悩んでいること等への課題を最優先に取り組み、その成果を保護者や教育関係者に情報発信して「社会貢献」することを大切にしています。

優先順位 1 命や人権に関すること

主な教育活動

- コロナ禍での感染症対策の徹底(高齢者を中心にコロナ禍の死亡者5万人以上)
- 一次救命法の習得・集団演技(医療体制が充実していない地域の教育として高い評価)
- いじめ防止教育の徹底(いじめは命に直結する人権侵害である)
- マラソン大会での事故対策の徹底
(ペースランニング・実力に応じた距離選択・健康診断・体育の事前指導・事故防止体制等)
- 避難訓練・小中合同訓練(危険を予測し、自ら回避する能力の育成・消防署等の連携)
- 宮本養護教諭による保健指導を定期的に実施。
- 生徒指導における連携(教育委員会・児童相談所・住民健康課・医師・保育園・小学校等)

優先順位 2 生徒一人一人の「悩みや困っていることへの対応」の徹底

- 一人一人の生徒の認知に基づく情報共有と協働実践。
(年3回の信頼性と妥当性の高いWEBQU検査による、情報共有と対策の協働実践によるデータを活用した教育実践。)
- 上記の調査に加え、面接・観察等を加えて指導をしている。
- いじめに関する「自助・共助・公助」の特別な指導の実践している。※次ページ資料参照
- 不登校予防に関する悩みや困りごと相談を組織的に実施している。
- 学習・受験・友人関係・部活動・行事・SNS・家庭環境・身体に関わる悩み等を幅広く聞き適切に組織対応している。
- 学校では対応が難しい場合は、各関係機関に確実につないでいる。
- 保護者との綿密な相談を必要に応じてしている。

優先順位 3 単元を貫く課題解決学習を全教科で推進している

- 3観点の学力のめあてを言語活動を通して実現する学習指導を全教科でしている。
- 校内研究を通して、各種調査を分析して協働実践している。
- 教科のめあての達成だけでなく、言語活動でルールと人間関係を良好にしている。
- 上記1から3を通して、全クラスを「安定」していて「活性化」した集団づくりをしている。

優先順位 4 小学校や保護者、地域との連携

- 毎日の学校生活を基盤に1から3を徹底し、その上で小学校・保護者・地域との連携指導を強化して実践している。
- 小学校との連携は学習指導や行事を通して今年が一番強化されている。保護者とは主にPTA活動を通して実践し、地域活動は「15歳の提言、太鼓、救急救命」等で実践している。

学校教育目標の「貢献」は、教職員自らが実践すべきと考えている。教育課題が多い学校現場の現状である。だからこそ、目の前の生徒やふるさとの教育実践を通して全国の学校に貢献したいと考えて主体的に研究し、情報発信している。

自校だけが良ければ良いのではなく、道志中学校の教育実践が他校に貢献できれば教育公務員としても道志村としても誇りである。若い先生方の実践で成果を得ている。道志中学校での学びが各先生方のこれからの教員としての人生や山梨県の教育に生かされることを校長として願っている。

本校で今までに一番嬉しかったのは、若鮎祭の生徒や保護者の感想に「先生たちが仲が良い」と書いてあったことだ。それは、忖度や同調、上辺の人間関係ではなく、厳しく高め合う教育実践を通して築いたお互いの「信頼」の上にあるものだからだ。

日本教育新聞(全国紙)に掲載された「やまゆり」の原稿(11月28日掲載)

心に残る 校長講話集



01160

杉本 賢二 山梨県道志村立道志中学校校長

自然災害と違い、いじめは学校を舞台とした人災です。生徒たちに向け、自助・共助・公助の大切さに触れた講話です。



「いじめはどの学校でも、どの子にも起こる」こと

いじめ 減災へ 自助・共助・公助の連携

約6割程度は防
止できるらしい
です。

を確認したいと思います。国立教育政策研究所が行った小・中学生への6年間の追跡調査では、9割の児童生徒がいじめの被害を受け、また、した経験があると答えています。また、令和3年度のいじめによる認知件数は約61万件で、重大事態は705件です。

本校では、自助・共助・公助の連携で減災したいと考えています。減災なのは、本校でもいじめが起こる可能性が高い

という覚悟を持つからです。

公助については、学校や教育委員会は「いじめ防止対策推進法」に基づき、防止・早期発見・適切な組織対応・再発防止などに全力で取り組み、皆

さんの命と人権を全力で守り抜くことを約束します。その上で、今日は自助と公助について考えてほしいと思います。

まず、「自助」です。いじめの定義は、被害者が嫌だと感じる主観によって成立します。いかなる事案でも、被害者に罪はなく、加害者の思いはいじめを正当化する理由にはなりません。この知識は、被害者を守るだけでなく、あなたが加害者になることも防

いでくれるはずです。

自助で一番大事なことは、「いじめの解決に死を選ばない」ことです。そのためには、嫌な気持ちに気付いたら、友人や保護者や先生に相談することが自分を守る第一条件だと知ってください。他にも、対外機関へのメールや電話相談もあります。

次は、「共助」です。いじめは集団の中で起こります。一説では、いじめを止めれば

見て見ぬふりが、いじめを継続させ、誰も助けてくれない状況がづらさや絶望感を助長します。

また、いじめの発見や被害者の相談を人につなぐ行為は、被害者だけでなく加害者も救います。

自分も他の人も大事にする。そのために、自助・共助・公助の連携によって、一人一人の命と人権を確実に守りましょう。